

# 福島県 教育新聞

発行人 福島県教職員組合  
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141  
〔定価一部 20円〕  
編集・責任者 角田 政 志  
e-mail : ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp  
http://www.f-t-u.or.jp  
(この購読料は組合費に含まれています。)

## 熱心な討論！ 団結を図る！ 各専門部で活動方針を決定！

各専門部  
定期大会・  
総会開催



(6月4日 事務職員部)



(6月11日 女性部)



(6月15日 幼児教育部)



(6月18日 養護教員部)

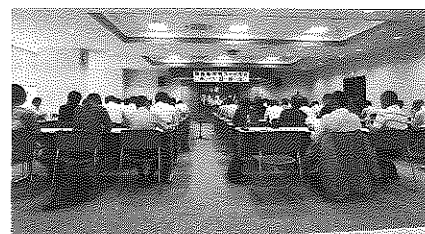
5月に行われた第92回県教組定期大会で決定された16年度の運動方針を受けて、各専門部の定期大会・総会が開催されています。各専門部とも真摯な討論がなされ、具体的な活動方針が決定されました。それぞれ活気ある大会・総会となり、団結を強め、専門部組織の強化・拡大を進めることを確認されました。

事務職員部では、「学校事務の共同・連携実施」の試行の現状と課題について論議されました。女性部では、組織拡大のための取り組みや新評価制度における期首面談で数値目標を設定するよう強要されたなど、現場の状況について論議されました。幼児教育部では、勤務状態の厳しさや困難さについて話が出されました。養護教員部では、フッ素洗口導入の現状や問題点、阻止するための取り組み方などについて真剣に話し合いがなされました。

6月25日(土)・臨時採用教職員部、7月2日(土)・障がい児教育部、7月3日(日)・青年部、7月9日(土)・栄養教職員部の各専門部の定期大会・総会が開催されます。

## 県平和フォーラム第17回総会開催 6月12日(日)ラコパふくしま

県教組中央執行委員長が代表を務める平和フォーラムの総会が各加盟組織の代議員の出席によって開催されました。県教組からは、「原発のない福島！」の運動を長期的に継続して取り組む必要性や、フッ素洗口は様々な問題をはらんでおり、特に人権問題に関わる重大な問題であることについて発言し、協力して取り組むよう呼びかけました。また、角田委員長の代表継続も含め新体制が承認されました。



# 職場ではフッ素洗口 「希望しない」の意思表示を!

フッ素洗口の  
現状と取り組み

## — フッ素洗口導入を反対するポイント —

- 「疑わしきは使用せず」  
(予防医学の原則・薬害を防ぐ最大の原則)
- むし歯予防は、食生活や適切な歯みがきの指導で

### 反対する理由

「フッ素洗口は六歳未満は禁止」  
(一九九四年 WHO 勧告)

フッ素は劇薬、管理困難である

フッ素洗口は医療行為、学校で行うべきでない

フッ素洗口は教職員や児童の人権問題を生じさせる

学校に不測の混乱をもたらすこと

5月に県の健康福祉部長より出された「市町村フッ化物洗口事業費補助金交付要綱」により、学校におけるフッ素洗口導入の動きが活発になってきています。市町村教育委員会や各役所の健康課などから、一斉の取り組み、もしくは、学校ごとに希望の有無を確認するという形で現場におりてきています。非常に問題が多いことから県教組では反対の立場で運動を進めています。市町村教育委員会から学校に実施意向調査の依頼が来たらフッ素洗口導入に伴う問題点を確認し、「希望しない」とはっきり意思表示することが重要です。市町村の中には、学校が「希望しない」と校内で確認したことによりフッ素洗口導入が取りやめになったという例も出ています。

今後の取り組みとして、市町村及び市町村教育委員会宛に申し入れ書を作成し、必要に応じて交渉を行う予定です。このことに関して動きがありましたらすぐに支部、または本部に連絡するようお願いいたします。

※ フッ素洗口についての資料は、県教組 HP からダウンロードできます。

今年もやります!

共済 **おしゃかきキャンペーン**

2016年6月1日~8月31日

★お楽しみ抽選で  
お名1000名様に  
あたる!

<b>A</b> 北海道の日本酒 (2本セット)	<b>B</b> 千葉県梨ゼリー (6個入り)	<b>C</b> 石川のゴーゴーカレー &のと豚カレー	<b>D</b> 大分のドレッシング 「ゆふいんの森」
--------------------------------	-------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

あんしん むすぶ ●  
**教職員共済**  
福島県事業所  
TEL 024-523-3011

専用応募用紙またはホームページでご応募ください

# 熊本で福島のことを考えた

## 感想 熊本県ボランティア派遣

日教組の要請を受け、県教組から熊本県へボランティア派遣を行いました。

- 6月9日(木)～15日(水)
  - ・内村 勝男さん(県北ブロック中執)
  - ・畠山あゆみさん(本部書記)
- 6月13日(月)～19日(日)
  - ・瓶子 高裕さん(副中央執行委員長)
  - ・佐藤 慎治さん(浜ブロック中執) 他1名

計5名派遣

結団式



ボランティア先にて

### 内村 勝男さん (県北ブロック中執)

不謹慎だが、ボランティア活動をしながらも、私の関心は被災者自身ではなく、被災者を受け入れる側(行政・学校、地元住民・国民)に向いていた。

発災から2ヶ月。小学校体育館への避難者は30名以下に減少し、ステージ側前半分に身を寄せ、後半分は授業に使われていた。市役所の担当者が日常業務をこなしながら昼と夜、交代で1名が張り付く。地元の民生委員等が交代で食事時の手伝いに来る。体育館内の秩序は保たれ、自主的な清掃活動などが行われていた。

今回の災害は、前震の後の本震で多大な被害が出たこと、その後の余震が長く続いていることが特徴である。避難者の中には、全壊、大規模半壊等で家に住めない方もいれば、日中は住めるが寝るのは怖いから夜だけ避難してくる方もいる。今後、仮設住宅建設や雇用促進住宅の点検が進めば、家を失った方たちの入居が始まるだろう。その時「怖い」から避難している方たちを受け入れてくる場所はあるのだろうか？

あれから5年経った福島では「放射能の影響が怖い」から県外に避難している方が今でも大勢いる。戻ってきた人もいるし、避難できなかった人もいる。程度の差こそあれ「放射能の影響が怖い」気持ちは一緒である。しかし、避難の期間が長引けば長引くほど、被災者を受け入れる側から「いつまで怖がっているの！」という声が聞こえてきそうである。

熊本は地震(天災)、福島は放射能(人災)の違いはある。「もっと大きな地震が来るのではないか」と怖がる気持ち。「放射能の影響があるのではないか」と怖がる気持ち。

この怖がる気持ちを、被災者を受け入れる側の多くの人に！

### 畠山あゆみさん (本部書記)

シートで覆われた家々を見ながら熊本空港へと降り立った。空港内は亀裂が入り、立入り禁止の個所が目立ち、被害の大きさを肌で感じた。駅へ向かう大通りの被害は少なく、交通の不便さは感じなかったが、歩道は既にコンクリートが剥がされ砂利道になっていた。よく見ると立入りが制限されている家も数多く見受けられ、復興には程遠いと感じた。

避難所ではたくさんの方が共同生活を行い、ストレスを感じていた。中でも気になったのは子連れの避難者だ。子どもが私達と触れ合う事を迷惑になると感じ「邪魔しちゃうけん」と、厳しく注意をしていた。子どもの相手は大好きだし、ボランティアの一環なので大丈夫だと伝えても、理解は得られなかった。市職員の方も「夜に子ども達が眠れるよう日中はたくさん遊んでほしい。」「保護者の意見を尊重して、遊ばないようにしてほしい。」と、人によって意見が分かれ支援の難しさを感じた。また「トイレは避難している人にも協力を呼び掛けてから掃除する」という一文があったため、初日、職員の方に確認をしたが「声はかけなくてもいい。」という返答だった。職員の方は特に避難者を気遣っていると同時に感じた。でも人は役割がないと無力感を感じてしまう。そう思って目につく場所で掃除や片付けを行うと、手伝ってくれる人が現れた。「出来る事はしたい。人任せにしたくない。でも自ら動くのは他人の目が気になる。」「あなたが掃除していると一緒にやりやすい。」そう声を掛けてもらった時、動いてよかったと感じた。

震災当初とは違い、配給は全員に行き渡っていた。しかし、その様子を「贅沢になってきた」と話す職員がいた。そうだろうか。「うち赤やけん(立入禁止の張り紙)、帰れんばい。」ふと口にした子どもがいた。胸が詰まる思いだった。帰りたくても帰れない、避難所にいたくている人なんていない。避難者の状況をもう一度考えてほしい。まだ支援は必要で、それは東日本大震災で被災している人も同じだと感じた。



熊本城



益城町

たいへんお疲れさまでした!

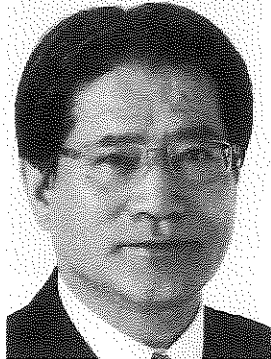
参議院議員選挙福島県選挙区  
歴史的な「県内野党3党合意」

教え子を再び戦場に送るな!

安倍政権の暴走政治をストップさせよう!!

戦争法の廃止

憲法遵守



集団的自衛権行使容認の  
閣議決定撤回

立憲主義回復

個人の尊厳擁護

福島復興と原発の廃炉

安倍政権打倒

野党統一候補者

# ましと輝彦さんの教育政策

## ○教育政策についての考え方

「チルドレン・ファースト (子どもが第一)」の考え方のもと、育ち育みあう社会を実現し、お金がなければ適切な教育を受けられないという教育格差の壁を破ります。

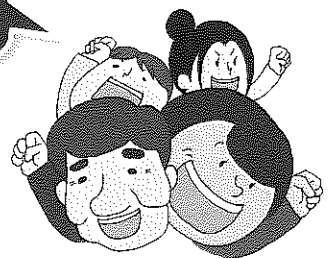
かけがえのないひとりとして、個性を發揮しながら自分らしく生きていきたい。それはすべての子どもに共通の願いであるはず。だからこそ、生まれた環境に関係なく、子どもの時から同じスタートラインにたち、可能性 (個性) を伸ばせる教育環境を作ります。

## ○教職員の定数増と教育予算の拡充

入試制度を改革し教育を再生、大学等の授業料減免拡充と給付型奨学金の推進など教育予算の拡充を図るとともに、とくに負担の多い教職員については正規雇用を拡大して教育環境の改善に努め、女性や子ども、次世代の人への投資を進めていきます。

目標40,000筆

# 「戦争法の廃止を求める 統一署名」



一筆でも多く、6月末まで署名を集めよう!